

記念講演 I

ハードルを越える

為 末 大
Deportare Partners 代表

目 次

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. はじめに | 5. 失敗とその克服 |
| 2. スポーツ選手のセカンドキャリア | 6. 秩序と混沌、言葉の力 |
| 3. スポーツと選手の個性 | 7. 終わりに |
| 4. 失敗の原因 | |

1. はじめに

日本のスポーツは、今、大変強くなっている。特に、陸上競技の躍進は目覚ましい。リレーはメダルが当たり前であり、金メダルが期待できるレベルにある。われわれの時代は、決勝に残れるかどうかに関心事であった。ほとんどの競技の応援をしているが、私は今も400mハードルの日本記録保持者で、この競技だけは応援していても微妙な心持ちである。日本のスポーツ競技の水準が向上し、心から応援できるのはうれしい状況である。

今回のラグビーワールドカップを観戦して感じたのは、未来の日本は、このラグビー代表チームのようになっているのではないか、ということである。ラグビーでは、日本で育っていない選手が日本代表として活躍している。数十年後には、多くの移民が日本に住むことになるのではないか。ラグビー日本代表は、多様性がある一方で、ある種のビジョンを共有し、非常に良い形でチームとして機能した。これが日本の未来の形かもし



れない。

私が代表を務める会社の社名、「Deportare」は、「スポーツ」の語源とされているラテン語である。当社では、スポーツそのものよりも、社会の課題についてスポーツを介して解決したり、価値を見いだしたりする活動をしている。卓球の荻村伊智朗氏は「卓球外交」を打ち出し、その活動が日中国交正常化につながった。今、私はスポーツで社会に貢献できることを求めて活動している。

今回のアナリスト大会のテーマは「2020年以